

戦争の準備ではなく平和の準備を

「県独自の平和的な地域外交の推進を」——渡久地修県議が質問



質問する渡久地修県議団長



答弁する玉城デニー県知事

日本共産党・渡久地修県議団長は、3月2日に県議会の一般質問で、岸田内閣の進める大軍拡が78年前の沖縄戦に突入して行った動きと全く同じだと具体的な事例をあげて警鐘を発しました。(2・3面参照)

また、沖縄を戦場にさせないために、積極的な自治体外交を知事が先頭にたつて行うことや、ASEAN関連の会議の沖縄への誘致などを改めて提案しました。

知事公室長は、「アジア太平洋地域の緊張緩和と信頼醸成に寄与することを目的とする、アジア太平洋地域平和連携推進事業を実施している。新たに設置する地域外公室で策定する沖縄県地域外交基本方針（仮称）も踏まえ取り組んでいく」と答弁しました。

玉城デニー知事は、「二度と沖縄を戦場にしてはならない」との決意を改めて表明するとともに、アジア太平洋地域における平和構築に貢献するため、ASEAN等の国々も含め、本県が有する多様なソフトパワー、ネットワークを活用した独自の地域外交に県民の皆様と一丸となって全身全霊で取り組んでいく」と答弁しました。

「二度と沖縄を戦場にさせない決意で全身全霊で取り組んで行く」と知事が答弁

「沖縄を再び戦場にしないよう日本政府に対し対話と外交による平和構築の積極的な取り組みを求める意見書」可決



賛成討論する渡久地修県議 3/30

県議会は3月30日、与党提出の下記の内容の意見書と無所属の会の賛成多数で可決。公明は退席、自民は反対しました。渡久地修県議団長が賛成討論を行いました。

- 1、アジア太平洋地域の緊張を強め、沖縄を再び戦場になることにつながる南西地域へのミサイル配備など軍事による抑止力ではなく、外交と対話による平和の構築に積極的な役割を果たすこと。
 - 2、日中両国において確認された諸原則を遵守し、両国間の友好関係を発展させ、平和的に問題を解決すること。
- あて先は、内閣総理大臣、衆参両院議長らとなっています。

2023年度予算編成要望書を知事に提出



1月6日、日本共産党県議団は2023年度の予算編成について、308項目の要望書を玉城デニー知事に提出。

玉城デニー知事は「誰一人取り残さない沖縄らしい社会、安全安心で幸福が実感できる沖縄の実現と、沖縄を再び戦場にさせない強い思いで対応したい」と述べました。

琉球漆器の学校給食食器の拡充を



琉球漆器産業はきわめて厳しい状況にあるとして県としての支援策を求め、また、琉球漆器の学校給食用食器の普及について質問しました。

デニー知事は、「漆器と食器という触れ合える機会をつくるのは非情に重要。関係部局、教育委員会と協力しながら、検討していきたい」と答弁しました。

龍頭棟飾製作は壺屋陶器組合に

県民の力で復元、伝統工芸産業、県内技術者育成の方針からしても、壺屋陶器事業協同組合を中心にと質問しました。

土木部長は、「壺屋陶器事業協同組合等県内技術者と緊密に連携を図り、今後、監修会議に諮り決定したい」と答弁しました。

御茶屋御殿の復元を

調査の進捗状況と復元方針について質問。土木部長は、「現在、既存資料の収集整理や事業手法の検討。引き続き予定地の調査、関係機関及び関係者へのヒアリング等を実施する」と答弁しました。

石垣市の大規模ゴルフ場計画

優良農地が失われ、周辺農業や牧草の自給にも大きな影響を与えるとして、農地転用は許可すべきでない」と質問しました。

私立夜間中学の認可を



私立夜間中学校「珊瑚舎スコーレ」の設置認可について、知事が文科省に要請し「柔軟な対応が可能」との考えが示された。県としても一緒になって認可に向けて取り組むべきと質問。部長も「必要な助言を行っていく」と答弁しました。

沖縄を戦場にさせない



記者席

〇…昨年12月から沖縄の戦場化阻止を街頭で訴え続ける渡久地修県議（共産）。ミサイル基地の整備計画など現在の自衛隊の動きが、日本軍の飛行場整備など「戦前の動きと重なる」と危惧し、正月は約100カ所で行ったという。今議会でも県に危機感を訴えたところ、質問終了直後に傍聴者から賛同の連絡があり「沖縄を戦場にさせない」と声を大にして訴えないといけない」と改めて気が引き締まった様子。心強い追い風、演説活動にもより力が入るか。

渡久地修県議事務所生活相談は、098-885-4785

デニー知事第3次訪米行動

デニー知事が第3次の訪米行動を行いました。3月6日の空港での出発激励式では、渡久地修県議団長が、「沖縄を戦場にさせない」と、県民の思いを伝えてほしいと、激励の挨拶を述べ、デニー知事が、しっかりと県民の声を届けると決意を表明しました。



敵基地攻撃能力保有「新たな戦前の始まり」

自衛隊基地の地下化、ミサイル配備



一般質問する渡久地修典議員 3/2

3月2日の県議会一般質問で、岸田政権は、敵基地攻撃能力の保有を決定し、沖縄への自衛隊ミサイル配備など、沖縄を軍事要塞化しようとしているが、これは戦前、日本軍が20カ所の飛行場を建設し、沖縄を不沈空母として本土防衛の捨て石作戦を展開していった動きと同じだ、「新たな戦前の始まり」だと警鐘を発しました。(右の表を参照)

日本が攻撃されていないのにアメリカの戦争に参加。

台湾有事が盛んにあおられているが、今もっとも危険なのは、日本が攻撃されていないのにアメリカの戦争に日本が参加していくこと、その結果、沖縄が標的になり攻撃されてしまうことだと指摘。

知事公室長は、「戦略国際問題研究所(CSIS)が、今年1月に公表した中国による台湾侵攻を想定したシミュレーションの結果報告書によると、中国が台湾に侵攻し、米国が介入した場合、米国が勝利するには在日米軍基地を使用する必要があること、それから勝利した場合でも日本に甚大な人的・物的損失が生じることなどが示されている。特に、沖縄では多数の防空ミサイルが配備されていたにもかかわらず、中国のミサイルによって多くの航空機が地上で破壊されることや、嘉手納飛行場は破壊された多数の航空機、多くの遺体を埋葬する仮設墓地を有するようになる」との記述もあり、沖縄における甚大な被害が記述されている」と答弁しました。

沖縄を再び戦場にさせてはならない
捨て石にさせてはならない

旧日本軍 32 軍司令部壕 第5坑口周辺の土地取得 基本方針・計画策定へ

「第5坑口周辺の土地取得は完了。第1坑口の床面も確認できおおよその坑口の位置を推定できる。有識者委員会からの提言を受けて、基本方針、計画を策定する」と答弁しました。



2009年6月の壕調査

うちなーぐち、島くとうば普及 2期目の普及計画策定へ

照屋副知事は、「1期目の10年間の計画の、その反省と教訓を踏まえて2期目の計画を準備している。1期目で足りなかったことを十分に補完しながら、なお普及・継承という意味で充実・拡充できるような方針を立てて実行していく」と答弁しました。



今 岸田政権の動き

自衛隊の大増強
沖縄第15旅団を師団に格上げ

ミサイル配備
奄美から沖縄本島、宮古、八重山、与那国へ配備

那覇基地を地下化
自衛隊那覇基地の地下化。
生物・科学兵器対応へ強靱化

沖縄を要塞化
敵基地攻撃能力の
最前線基地として要塞化

台湾有事の際、沖縄・日本が
出撃拠点に
米国が勝利するには在日米軍基地を使用する必要がある (CSIS 報告書)

予測結果

「嘉手納飛行場は破壊された多数の航空機、多くの遺体を埋葬する仮設墓地を有するようになる」
(CSISのシミュレーション報告書)

「米軍空母、グアム基地、沖縄の米軍基地が中国の低出力の核兵器に攻撃される可能性がある」
(米中経済安全保障調査委員会報告書)

戦前 日本軍の動き

日本軍の増強
1944年3月、沖縄第32軍を編成

飛行場建設
奄美から沖縄本島、宮古、八重山に20カ所の日本軍飛行場を建設

地下司令部建設
首里城の地下に壕を掘って日本軍32軍司令部を設置

沖縄を不沈空母に
沖縄を本土防衛の持久戦、捨て石作戦として決行

その結果


「沖縄は国内で唯一、一般住民を巻き込んだ熾烈な地上戦の場となった。『鉄の暴風』とも形容される戦火の下で、沖縄県民は、想像を絶する極限状態を経験し、20万人余の貴重な生命と貴重な文化遺産を失った。」
(平成9年、第32軍壕保存・公開基本計画)

戦前の動きと今の動きを比べてみると

1	陸軍伊江島飛行場 (伊江島中飛行場、伊江島東飛行場)
2	陸軍北飛行場 (読谷飛行場)
3	陸軍中飛行場 (嘉手納飛行場・屋良飛行場)
4	陸軍南飛行場 (仲西飛行場・城間飛行場)
5	陸軍東飛行場 (西原飛行場・小那覇飛行場)
6	陸軍石嶺飛行場
7	海軍小禄飛行場
8	海軍与根飛行場
9	海軍南大東島飛行場
10	海軍宮古島飛行場
11	陸軍宮古島中飛行場
12	陸軍宮古島西飛行場
13	海軍石垣島平得飛行場
14	海軍石垣島北飛行場 (平喜名飛行場)
15	陸軍石垣島飛行場 (白保飛行場)
16	陸軍石垣島宮良飛行場
17	海軍奄美大島飛行場 (古仁屋基地)
18	海軍喜界島飛行場
19	陸軍徳之島北飛行場
20	陸軍徳之島南飛行場

沖縄から発射した場合の射程

広聴広報費



子どもたちに平和な沖縄・未来を
日本共産党沖縄県議会議員

とぐち 渡久地修 事務所
おさむ

〒903-0811 那覇市首里赤平町1-4-1
電話 885-4785